

「同和問題・部落差別」

今回は部落差別について部落解放同盟丹波市支部連絡協議会の細田さんにお話を伺いました。

細田さんからのお話は次のとおりです。

「部落差別なんて、過去のこと」「世代が変わったから、もう差別はない」「もう関係ない」などと思われる人もおられることでしょう。

しかし、部落差別は今でもあります。

全国的な最近の事例では、「息子が結婚を考えている相手とその母親から『あなたは被差別部落と関係ないのか。被差別部落の人との結婚は出来ない』と言われた」こと、結婚や住宅購入時などに公的機関へ被差別部落に関係するかの聞き合わせがあること、学校での授業やクラブ活動などで差別用語を使った事例、差別用語が書かれた年賀状が届いたり、チラシに入れられた事例があります。

しかし、このような差別の現状は、報道されることがないため、社会に知られることはあまりありません。部落差別をなくす取組をしている人たちが、相談や報告を受けて表に出てくるのです。しかも表に出てくる事例は、ほんの一部のため、このような現実の問題に出会ったり、感じたりする機会は、日常生活の中ではほとんどないと思います。

今、「部落差別」は本当に見えにくくなっています。意識して見ないと見えないのが「部落差別」です。また、若い世代が部落に対する正しい知識を持っているとも限りません。むしろ若い世代のほうが、予断と偏見を持っている割合が近年増えているのが現状です。

悲しい話ですが、社会的に大きな問題となる事件が起きると、「被差別部落」と結び付け、予断と偏見を持ってネット上に流す人が出てきます。それらの情報を見た人が、「ああやっぱり」「そうなんや」と納得し、あたかも真実のようにその情報が拡散されていきます。

これらのことで傷つき、悲しい思いをしている人がいることや差別されないかと不安を抱いて生活している人がいることを知ってください。

差別は、する側、される側どちらも大きく傷つきます。

部落差別に対する正しい知識を持っていただくと共に、差別を見抜く力をつけてほしいです。そして、意識して見て、正しい判断を常に心がけてください。

以上、細田さんから部落差別の現状のお話をお聞きしました。

部落差別は決して許されません。すべての人の人権が尊重される社会を築いていきましょう。

